

マリンビジョンNewsは、サロマ湖地域の1市2町で構成するマリンビジョン協議会が、自然環境と共生した明るい未来を創造する漁村づくりに向けた活動を紹介する広報紙です。

◆ 外海ホタテ貝漁が終漁

平成25年のオホーツク海での外海ホタテ貝漁は、常呂漁協と佐呂間漁協が12月20日、湧別漁協が同月22日で終漁し、湧別漁協は前年度実績より13%増の37,366トンで過去最高の漁獲量を記録しました。昨年は全体的に過去に例を見ない高歩留となり、ホタテ玉冷製品の輸出が好調で原貝価格も高水準で推移したことから、3漁協もと前年の漁獲金額を大きく上回る実績となりました。平成26年の外海ホタテ貝漁にも大きな期待が寄せられています。

【平成25年 3漁協外海ホタテ貝の漁獲状況】

漁協	計画漁獲量	実績漁獲量
常呂漁協	34,000t	38,031t
佐呂間漁協	8,500t	9,310t
湧別漁協	30,000t	37,366t



【外海ホタテ貝漁の荷揚作業(湧別漁港)】

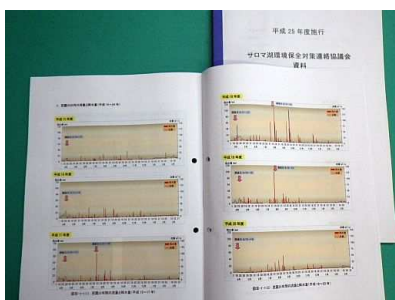
◆ サロマ湖の環境保全

3月4日、サロマ湖の環境保全に係わる問題とその対策について協議を行う「サロマ湖環境保全対策連絡協議会(会長:櫻田真人北見市長)」が北見市常呂町で開催されました。

協議会には、漁協をはじめ地元関係団体と網走開発建設部網走港湾事務所やオホーツク総合振興局など関係機関が出席し、サロマ湖に流入する佐呂間別川及び芭露川の水質調査、底質調査、生物調査などの調査結果が報告されました。



【佐呂間別川・芭露川調査資料】



同委員会では、これらの調査結果によりサロマ湖内へ流入する河川水の拡散状況や生態系への影響を参考にする事で水質管理の問題点を把握し、今後のサロマ湖水質環境の保全対策を進めることになりました。

【調査結果資料】

◆ 佐呂間・湧別で史上最高を記録！！

常呂で史上2位の記録！

3月12日に佐呂間漁協、同14日に常呂漁協、同15日に湧別漁協がそれぞれ通常総会を開催しました。

各総会とも、平成25年決算と平成26年事業計画などの議案が承認され、主要漁業の外海ホタテ貝の歩留が良く単価も高値となったことから、佐呂間漁協は31億6,000万円の漁獲高となり史上最高を記録しました。

湧別漁協も、外海ホタテ貝が史上最高の漁獲量を記録、また、サケ定置網漁も好漁であったことから94億8,900万円の漁獲高となり、2漁協とも史上最高の販売金額を記録しました。

常呂漁協は前年対比12%増となる117億3,000万円の漁獲高となり史上2位を記録しました。ホタテ稚貝放流やサケ・マス稚魚放流などの増養殖事業がサロマ湖地域3漁協の安定した水揚げを支えています。



【佐呂間漁協の通常総会】

◆ サロマ湖第2湖口の漂砂対策決定



【サロマ湖第2湖口】



平成24年1月に埋塞したサロマ湖第2湖口の埋塞メカニズムの検証と抜本対策の検討を行う「サロマ湖漁港漂砂対策技術検討委員会（委員長：山下俊彦北海道大学大学院工学研究院教授）」の平成25年度第3回目の委員会が3月14日に札幌市で開催され対策計画が決定しました。

検討作業では効果・経済性・施工性・漁業活動への影響等が総合的に判断された埋塞対策となっていて、事業内容は「航路幅を50mから75mへの拡幅によるフラッシュ機能の強化」、「サンドポケットの造成による沿岸漂砂の制御」、「防砂堤の30m延伸、嵩上げによる貯砂機能の確保」などで、平成26年度より着手する予定です。網走開発建設部をはじめとする関係機関の協力によりサロマ湖地域の漁業が支えられています。

発行 サロマ湖地域マリンビジョン協議会
編集 サロマ湖地域マリンビジョン協議会事務局広報担当
〒099-6404 湧別町栄町112番地の1

2014. 3. 31

湧別町総合支所産業振興課水産林務係
Tel 01586-5-3763 ・Fax 01586-5-2283
Mail sangyo@town.yubetsu.lg.jp

